

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
目的	本学科は、近畿大学豊岡短期大学通信教育部の幼稚園教諭二種免許取得科目および保育士試験免除科目を履修し、幼稚園教諭および保育士の資格取得を目指し、取得に必要なスキルを基礎からしっかりと学ぶほか、現場で求められるコミュニケーション能力はもちろん、さらに本校ならではの子どもたちに適切なスポーツ指導を行うスキルを身に付け、現場が求める人材を育成します。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	芸術専門課程	こども学科		平成25年文部科学大臣 告示第2号	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1735	1230	0	1645	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人		53人	3人		14人	17人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定		
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から電話・メールでの指導。保護者への連絡。場合により後日三者面談の実施。		課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 学校法人麻生学園 南多摩幼稚園 学校法人埼玉医科大学 あすなる保育園 社会福祉法人多摩養育園 株式会社日本保育サービス 株式会社ポピンズ ■就職率 ^{※1} : 98.1% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 92.9% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等		幼稚園二種 保育士 キャンプインストラクター 幼児体育指導員 キッズ・ジュニアエアロビク指導員 おもちゃインストラクター		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成27年4月1日時点において 在学者 70名 平成28年3月31日時点において 在学者 70名 ■中途退学の主な理由 ①経済的理由 ②学習意欲の低下 ■中退防止のための取組 ①個人面談を中心とした個別サポート ②業界理解セミナー・実習によるモチベーションの維持		中退率 0%		(平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)		
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園や保育園、関連企業と連携体制を確保して、幼稚園教諭や保育士に求められる人材の養成を目的とした授業科目内容の見直しを図る。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師によって適宜、指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等を教育機関や保育機関より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
内山 葉月	NPO法人 BOON	H28年4月1日～H29年3月31日	①
本宮 和宏	株式会社ティダ	H28年4月1日～H29年3月31日	③
竹内 雅代子	南多摩幼稚園	H28年4月1日～H29年3月31日	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	H28年4月1日～H29年3月31日	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	H28年4月1日～H29年3月31日	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	H28年4月1日～H29年3月31日	
杉浦 晋	日本工学院八王子専門学校 主任	H28年4月1日～H29年3月31日	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	H28年4月1日～H29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

(開催日時)

第1回 平成28年3月8日 15:10～17:10

第2回 平成28年7月19日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

資格取得のため規定しているが、「教育実習事前指導」「こどもと音楽表現」「スポーツ実技」の実技授業にて学生達が創意工夫し、教育実習を迎えられるよう指導している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭、保育士としての実務に必要な基礎知識を身に付け、実習や実務で即戦力となるために、現場となる幼稚園や保育園、幼児体育関連企業からの助言や指導を直接得られることが可能な企業を選択する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

幼児を対象とした運動指導に関して実技・実演を学ぶ。将来、こどもへ教育・指導する事を念頭に、より実践的で分かり易いプロセスでの学習体系を構築し、実際のこども達の指導も含めたノウハウを教授いただく。授業では保育内容を理解させ、「こどもと体育1」では、体育の基本的な知識と特に幼児の運動能力向上を目的とした運動指導の実践方法を学ぶ。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
こども体育1	こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験が出来るような環境を設定することが大切である。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じた指導が出来るとともに、こどもの発育発達に則した運動遊びの指導法の習得を目的とする。	日本幼児体育学会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

●平成28年3月15日9:00～12:00

[講師]NPO法人 FIELD OF DREAM 大堀 綾

[内容]コーディネーショントレーニング

●平成28年9月29日10:00～12:00

[講師]八王子市保育園協会会長 宮崎豊彦

[内容]育児の社会化について

②指導力の修得・向上のための研修等

●平成28年3月15日14:00～17:00

[講師]トランスアクト株式会社 前原恵子

[内容]学生・保護者との接し方、接遇とコミュニケーション力向上

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

●平成29年3月頃 ※予定

[講師]八王子市保育園協会

[内容]地域連携によるイベント運営について

●平成29年9月頃 ※予定

[講師]八王子市保育園協会

[内容]キャリア実習についてのノウハウ

②指導力の修得・向上のための研修等

●平成29年3頃

[講師]株式会社ワークポート 梶川恭平 ※予定

[内容]企業が実践する就職相談のノウハウ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行うなど、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セトラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヵ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日
URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 こども学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なコミュニケーション能力などを身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
○			憲法	日本国憲法の定義について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	ハードウェア、ソフトウェアの概要、Windowsの基本操作、ワープロソフト、パワーポイントソフト、表計算ソフト等について学びます。	1・前	15	1	○	△		○				○
○			英語コミュニケーション	保育の現場で役立つ英語表現を学び身につけます。	1・前	30	2	○			○				○
○			健康科学	子どもたちの健康について科学の側面から学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○			こどもと造形1	幼児造形教育の重要性と研究の観点、幼児造形表現の特徴について、造形遊びの手法について学びます。	1・後	30	2	○	△		○	○			○
○			こどもと音楽	子どもの成長過程における音楽の関わり方、必要性について学びます。	1・後	30	2	○	△		○			○	
○			発達心理学	人間を理解するための心理学的な考え方、ものの見方を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	教育の目的や本質について学びます。	1・後	30	2	○			○				○
○			保育内容総論	五領域の保育内容を統合的に捉え、指導する力を養います。	1・後	15	1	○			○				○
○			教育心理学	教育心理学の基本的な理論について学びます。	1・後	15	1	○			○			○	
○			教育実習事前指導	教育・保育・福祉実習に向けた事前指導を行います。	1・後	35	2	○			○				○
○			保育原理	保育の目的、本質、制度などについて学びます。	1・前	30	2	○			○				○
○			児童家庭福祉論	児童を取り巻く環境について、福祉的な視点での理論を学びます。	1・前	30	2	○			○				○

○		こどもの保健 1	五領域の「健康」。子どもの健康・成長について学びます。	1・前	30	2	○	△		○			○		
○		社会福祉論	社会福祉・社会福祉援助技術の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○			○		
○		家庭支援論	家族・家庭という小集団に着目し、子どもを取り巻く環境への支援方法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○			
○		社会的養護	児童福祉と養護について、施設養護について学びます。	1・前	30	2	○			○			○		
○		こどもと音楽表現 1	保育現場における音楽のあり方、読譜のための基本的な音楽知識、保育現場において活用できる伴奏法や弾き歌いの実践法について学びます。	1・前	35	1		△	○	○			○		
○		こどもと音楽表現 2		1・後	35	1		△	○	○			○		
		○ スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1				○	○		○		
		○ レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方とさまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1				○	○		○		
		○ オープンスポーツ実技 1	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	45	1				○	○		○		
		○ キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	1・通	15	0				○	○		○	○	
		○ キャリアアップセミナーB		1・通	30	1					○	○		○	○
		○ キャリアアップセミナーC		1・通	45	1					○	○		○	○
		○ キャリアアップセミナーD		1・通	60	2					○	○		○	○
		○ 日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1				○	○		○	○	
		○ キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1				○		○	○	○	

		○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	1・前	30	1				○		○	○	○	
		○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1				○		○	○	○	
		○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○	○	○	
		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○	○	○	
		○	短期海外研修A	海外における幼児教育の現場実習体験を通じて子ども観・最新の保育技術を習得します。	1・前	60	2				○		○	○	○	
○			ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキル及びビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○		○			
○			ビジネススキル4		2・後	30	2	○			○		○			
○			乳幼児保育	0～3歳を中心に、遊び・発達・健康について学びます。	2・前	15	1	○			○				○	
○			教職論	教諭として必要な理論を学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
○			教育課程論	指導論・指導方法などを学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
○			教育方法論	教育の目的に応じて必要な適切な内容、方法の基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
○			教育実習事後指導	教育実習で得た経験について指導を行います。	2・通	60	4	○			○				○	
○			教育相談	子ども一人一人に合わせた支援のためのカウンセリング論を学びます。	2・前	30	2	○			○		○			
○			こどもと言語表現	五領域の「言語」について。子どもの成長に合わせた言語表現について学びます。	2・前	15	1	○			○				○	
○			こどもと造形表現1	五領域の「表現」について。子どもの造形・遊びについて絵画などを用いて学びます。	2・前	15	1	○			○				○	

○		保育・教職実践演習	保育の現場において、実践演習を行い、教職について学びます。	2・前	15	1	○	△		○			○	
○		こどもの食と栄養	子どもの食事と栄養について、保育者に必要な知識を学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもの保健2	五領域の「健康」。子どもの健康・成長について学びます。	2・前	30	2	○	△		○			○	
○		障害児保育	障害児の保育について必要な知識・技術について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもと音楽表現3	保育現場における基本的な音楽知識、保育現場において活用できる伴奏法や弾き歌いの実践法について学びます。	2・前	60	2	○	△		○			○	
○		こどもと体育1	子どもの運動遊びの重要性を講義と実技を通して学びます。	2・前	30	1				○	○			○
○		成果発表	卒業展の企画・準備・運営を実施します。	2・通	60	2				○	○		○	○
○		卒業研究	2年間で学んだ事のなかからテーマを決めて研究し発表する。	2・後	75	5				○	○		○	○
	○	キッズダンス	こども達を対象としたダンスの基礎技術と指導法を学びます。	2・後	30	1				○	○			○
	○	チャイルドスポーツ実技演習	チャイルドスポーツ（ボール運動、マット運動、跳び箱など）の基礎技術と指導法を学びます。	2・後	30	1				○	○			○
	○	絵本読み聞かせ実習	幼稚園・保育園で必須の絵本の読み聞かせの実習及び紙芝居、パネルシアターなどの実習も行います。	2・後	30	1				○	○			○
	○	コーディネーショントレーニング1	運動神経系を活性化させるコーディネーショントレーニングの基本知識や手技を学科として実技を通して学びます。	2・前	30	1				○	○		○	○
	○	コーディネーショントレーニング2		2・後	30	1				○	○		○	○
	○	オープンスポーツ実技2	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	2・前	45	1				○	○		○	
	○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	2・通	15	0				○	○		○	○

	○	キャリアアップ セミナーF		2・通	30	1			○	○		○	○	
	○	キャリアアップ セミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	2・通	45	1			○	○		○	○	
	○	キャリアアップ セミナーH		2・通	60	2			○	○		○	○	
	○	日本赤十字社救 急法B		2・通	30	1			○	○		○	○	
	○	キャンプインス トラクター実習 B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○		○	○	○	
	○	アウトドア実習 B	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○		○	○	○	
	○	マリンスポーツ実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○		○	○	○	
	○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1			○		○	○	○	
	○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○	○	○	
	○	短期海外研修B	海外における幼児教育の現場実習体験を通じて子ども親・最新の保育技術を習得します。	2・前	60	2			○		○	○	○	
	○	課外活動イベン ト	課外活動イベントに参加して準備・運営について学びます。	2・後	90	3			○	○	○	○		
○		情報リテラシー と処理技術・S	ハードウェア、ソフトウェアの概要、Windowsの基本操作、ワープロソフト、パワーポイントソフト、表計算ソフト等について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○		スポーツ	運動科学のアプローチ、スポーツ実技における基本練習からゲームへと展開します。	1・前	30	1			○	○		○		
○		こどもと言葉	子どもの言葉の向上を図り、子どもの言葉の先達となる保育者の言葉のあり方について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
	○	相談援助	保護者支援など、保育環境を援助する方法・カウンセリングスキルを学びます。	1・前	15	1	○			○			○	

	○	保育相談支援	気になる子など、発達障害を含め、保護者対応などのカウンセリングや理論を学びます。	2・前	15	1	○		○		○	
○		こどもと音楽表現3・S	保育現場における音楽知識、保育現場において活用できる実践法について学びます。	2・前	10	0	○		○		○	
○		こどもと体育2	子どもの運動遊びの重要性を講義と実技を通して学びます。	2・前	15	1	○		○		○	
○		教育実習	幼稚園の教育方針を理解し、適切な援助、指導を行うための判断、態度、技術、方法について学びます。	2・後	210	7		○		○	○	○
合計			94 科目		2875 単位時間				(131 単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1545時間(84単位)取得および選択科目を190時間(7単位)以上取得し、合計1735時間(91単位)以上取得すること		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。